

地域福祉活動計画の取組み状況（入舟地区社会福祉協議会）

1 入舟地区の地域福祉活動の現状

(1) お互いさまランチ

平成 24 年より開始。年 6 回開催している。9 月開催は敬老祝会を兼ねる。

(2) ふれあいウォーキング

平成 19 年より開始。年 1 回開催。子育て世代の参加も多く、多世代交流の場となっている。

(3) 赤ちゃん誕生お祝い会

今年で 4 回目。年 1 回開催。主催は入舟地区民生委員児童委員協議会。

2 入舟地区の課題

(1) 運営側のメンバーが固定しているため、徐々に高齢化している。

新たな担い手の掘り起こしが出来ていない。

(2) 地域福祉活動への参加意識が乏しい自治・町内会長がいる。

1～2 年任期の自治・町内会が増えたため、その場しのぎになりがち。

(3) 食料品を扱う店舗が閉店したため、買い物難民が増えている。

ふらふら運転になりがちな自転車や、シルバーカーを押してやや遠い店舗に行っている。

3 入舟地区で平成 31 年度～32 年度で取り組みたいこと

(1) しもまち笑顔の家の参加者を増やし、地域の居場所としての定着を図る。

(2) 運営メンバーを拡充し、新たな担い手を育成する。

入舟地区

地区の現状・・・・・・・・この地区はこんなまち

入舟地区の今ある地域福祉の活動の例（平成25年度）～こんな素敵な活動があります！～

- ・お互いさまランチ事業の実施
- ・ふれあいウォーキングの開催
- ・敬老祝会の開催

この地区の
良いところ

- ◆福祉施設が増えている。
- ◆海・川に囲まれている。
- ◆昔ながらの近隣同士のつながりが残っている。
- ◆多くのボランティアによって「お互いさまランチ」等の事業が実施されている。

この地区の
良くしたい
ところ

- ◆高齢者対象の、今後の生活に関する勉強会の機会をつくる。
- ◆集合住宅やアパートの住人とのつながりが無い。
- ◆隣近所とのつながりが、以前より無くなっている。
- ◆空き家があちこちあるが、利用できない。
- ◆住人の足になっているバスの本数が減っている。
- ◆高齢者が地域等の役に立つ喜びを味わえる場が必要。
（「してもらおう」意識を無くして、「してあげる」意識を持てる場）
- ◆高齢者・若者・子どもが一緒に集える場がほしい。

目標・目指す姿・・・・・・・・こんなまちにしたい

① 困った時に助け合えるまち

②若者と子どもと年寄りが
共存できるまち

③空いている土地・家を
活用できるまち

行動と工夫・・・・・・・・こう取り組んでいこう

顔の見える
地域づくり

- ◆必要最小限の個人情報を、町内会長・民生委員が把握する。
- ◆町内での「向こう三軒両隣」作りをする。
- ◆近所でのあいさつと、一言世間話を心がける。

多世代交流

- ◆子ども・若者・高齢者の集まりに相互に参加できる企画をする。
- ◆自治・町内会活動への若者の参加を促す。
- ◆自治・町内会やコミュニティ協議会で、出生時のお祝いを贈呈する。

空き家の
活用

- ◆空き家情報を共有し、活用を考える。
- ◆空き家を活用した地域の茶の間を開設する。
- ◆空き家を活用して子育て交流の場を作る。

地域福祉活動計画の取組み状況（白山地区社会福祉協議会）

1 白山地区の地域福祉活動の現状

- (1) 緊急情報キット配布活動 毎年 8 月～10 月。
- (2) 敬老祝会 毎年 9 月 15 日 ホンマ健康ランドにて 平成 30 年 98 名参加。
- (3) 友愛訪問活動 白山地区民児協が主体となって実施。
- (4) 地域の茶の間 毎年 7 月・11 月・3 月 白山コミ協福祉部会。

2 白山地区の課題

- (1) 地域福祉活動の担い手の自治・町内会長の高齢化並びに担い手としての積極的参加が少ない。
- (2) 地域行事の参加者はそれほど変わっていないが担い手の協力者がいない為新しい取り組み、検討がなされない。

3 白山地区で平成 31 年度～32 年度で取り組みたいこと

- (1) 現活動の継続の為の次期担い手の発掘。
- (2) あいさつ運動の継続 西区の事件を受け子ども達が不審者に襲われる事のないよう。声かけ運動。

白山地区

地区の現状・・・・・・・・この地区はこんなまち

白山地区の今ある地域福祉の活動（平成25年度）～こんな素敵な活動があります～

- ・緊急医療情報キット配付事業
- ・ふれあいお茶の間
- ・敬老祝会の開催

この地区の
良いところ

- ◆コミュニティ協議会ができたことにより、自治町内会の協力が得られるようになった。
- ◆伝統のあるまつり（住吉祭、8番組）が残っている。また、千灯まつりや明和義人祭等も盛り上がってきて地域で良いつながりができつつある。
- ◆住みやすい！（買い物が便利、医療機関が多く医療にかかりやすい、交通の便が良い、役所が近い、犯罪が少ない）

この地区の
良くしたい
ところ

- ◆商店街が無くなってきてマンションや駐車場になってしまった。
- ◆子どもがいなくなった。子どもを介するつながり（子どもが参加する行事、ラジオ体操等）がなくなってきた。プライバシーの問題もあり、子どもに連絡を取りづらい。
- ◆固定資産税や家賃が高い。
- ◆アパートやマンションは関わるのが難しい。自治町内会組織を持っていないところも多い。
- ◆向こう三軒両隣の付き合いがなくなってきた。班単位の見守りができると良いのでは。

目標・目指す姿・・・・・・・・こんなまちにしたい

① 声掛け・あいさつのあふれるまち

②行事にみんなが集う世代交流

③向こう三軒助け合いで安心できるまち

④顔・心（気持ち）がつながり、
孤独死のないまち

行動と工夫・・・・・・・・こう取り組んでいこう

声かけ
あいさつ

◆積極的に声をかけ、顔を覚える・覚えてもらう。

行事に集い
世代交流

◆自治・町内会の中で地域について一緒に考え盛り上げてくれる人を増やす。

◆子ども・孫関係のネットワークを通じて呼びかける。

助け合い
安心のまち

◆マンション住民へも地域行事の案内をし、連携を強化する。

孤独死の
ないまち

◆地域の行事やお茶の間などでお互いを知りあう機会を設ける。

地域福祉活動計画の取組み状況（長嶺地区社会福祉協議会）

1 長嶺地区の地域福祉活動の現状

- (1) 広報誌の発行 各事業の報告を兼ねて発行・回覧。
- (2) お茶の間サロン チューリップ…毎週木曜日 10:00～16:00
たんぼぼ…毎月第2火曜日 13:00～15:00
男の料理教室…毎月第4火曜日 10:00～13:00
- (3) ふれあい給食会 毎月第3木曜日 ひとり暮らしの方に手作り弁当を配食。
- (4) ほんぼーと花見の会 毎年4月 桜の開花時期に開催。
- (5) 蒲原祭り 毎年6月30日、7月1日・2日 コミ協・蒲原祭り実行委員会で開催。
- (6) コミ協夏祭り 毎年8月 万代長嶺小学校範囲で開催。
- (7) ふれあい3世代交流会 毎年9月 万代長嶺小学校の生徒を対象に開催。
- (8) 自主防災訓練 毎年9月 万代と合同で開催 今年は小学校も参加。
- (9) 3世代交流会（バーベキュー大会） 毎年10月 コミ協福祉保健部が中心となり開催。
- (10) たんぼぼクリスマス会 毎年12月 高齢者を招いてクリスマス会を開催。
- (11) ミニサミット 毎年2月 地域の方々にコミ協活動の理解と協力をお願いする会として開催。

その他にも、一年を通して地域の中で幅広い世代が交流できるような事業に取り組んでいる。

2 長嶺地区の課題

- (1) 少子高齢化により子どもは減少、高齢者は増加している。
- (2) 家主が亡くなった後、多くの空き家が放置されている。
- (3) お茶の間サロンなどの集まりの場に出て来られない方がいる。
- (4) 若い世代のボランティアが少ない。

3 長嶺地区で平成31年度～32年度で取り組みたいこと

- (1) 隣近所での見守りの強化など地域の支え合い活動を盛り上げていき、高齢化問題に対処したい。
- (2) 多くの方にお茶の間サロンに参加していただき、認知症予防や健康寿命を延ばすための活動を推進していきたい。
- (3) 多くの方に防災訓練に参加していただき、地域の“みんな”がいざというときの対応を理解できているような体制をつくりたい。
- (4) 地域での若い世代のボランティア活動を推進していきたい。

長嶺地区

地区の現状・・・・・・・・この地区はこんなまち

長嶺地区の今ある地域福祉の活動（平成25年度）～こんな素敵な活動があります～

- ・年間を通じ実施されている、コミ協の各種事業
- ・コミ協が実施主体となっている、地域の茶の間
- ・万代長嶺小学校、宮浦中学校での学校ボランティアの活動

この地区の
良いところ

- ◆ コミ協の組織がしっかりとしており、役職に応じて役割が明確。
- ◆ 高齢者を中心に住民に活気があり、コミ協の活動に協力的。
- ◆ 介護予防、健康増進に関心をもち、地域で取り組もうとしている。
- ◆ 東出張所、東地区公民館が地区内にあり、活動の拠点となっている。

この地区の
良くしたい
ところ

- ◆ 住民同士、住民と関係機関の連携を強化し、継続的な見守り体制を構築したい。
- ◆ コミ協活動の担い手となる、若手人材を発掘したい。
- ◆ 空き家・空き地の対策を進めたい。
- ◆ もっと、もっと元気な高齢者・住民を増やしたい。
- ◆ 買い物、交通の便を良くしたい。（意外とよくない）

目標・目指す姿・・・・・・・・こんなまちにしたい

① 元気で長生き

～ぴんぴんころりん～

② 安心安全、活力のある

まちづくり

③ 地域活動の

担い手の育成

行動と工夫・・・・・・・・こう取り組んでいこう

交流の深化

- ◆ 地区内の地域の茶の間の開催頻度を増やし、各茶の間同士、参加者同士の交流をすすめる。
- ◆ もっともっと多世代交流が進むような事業を計画、実施していく。
- ◆ 住民一人一人は健康を意識し介護予防に努め、地域はその機会を提供していく。

見守りの
体制づくり

- ◆ 自治・町内会単位の世帯票の整備を促進し、見守りの体制づくりに努める。
- ◆ 防犯パトロールの強化に努める。
- ◆ いじめのない地域づくりに取り組む。

担い手の育成

- ◆ 若い世代も参加しやすいような事業を企画し、コミ協と若い世代とのつながりを作り維持に努める。
- ◆ 現役を退いた、在宅の人材発掘に努める。

地域福祉活動計画の取組み状況（女池地区社会福祉協議会）

1 女池地区の地域福祉活動の現状

(1) 地域福祉活動計画にある活動として

① 地域包括ケアシステム学習会

6/28に緊急医療情報キットの配布について学習し、自治会長と民生委員で配布方法などを検討することを通して、地域の心配な人について考える機会となった。

また、3月には鳥屋野地区公民館、南地域保健センターと協働して、食にスポットを当てた学習会を予定している。地域で塩分を減らそうが、メインテーマになりそうである。

② 地域の茶の間の助成

支えあいの仕組みづくりを推進するため女池地区内地域の茶の間4団体（お茶の間ひまわり、八丁目の茶の間、ニコニコお茶の間神道寺、こぼりのき地域の茶の間）に対し、コミ協として助成金を支出した。

③ 子ども食堂

平成29年度よりこぼりのき会館本館で偶数月に開催。本年度は4月、6月、8月と3回開催している。参加人数も増え、毎回100人程度の参加がある。小学生、園児のいわゆる子供が6割、大人が4割程度で、世代交流の場になり、子どもたちにとっては貴重な体験になっていると思う。

④ 防災訓練と防災研修

・防災訓練 平成29年度は女池小・紫竹山小・鳥屋野中・江南高校の4会場で実施した。今年度は10/14に女池小で集中的に実施する予定。また、鳥屋野中学校との合同防災訓練を上所コミ協と共同で、中学生全員参加のもと6/15に実施した。中学生にコミ協や自治会と顔の見える関係を築いてもらい、災害時にも平時にも声をかけあえる関係づくりに役立っている。

・防災施設の視察 平成29年度は災害時に住民ニーズが集まってくる自治会を主体に山古志と長岡の施設を視察した。好評だったため、今年度も9/20に富山市にある四季防災館の視察を実施した。

(2) お互いに顔を知り合い地域を活性化する活動として

① スポーツを交流にした活動

・トリットボール大会 6/22と9/12に開催した。両大会とも50人近い参加者があり、交流の場を築くとともに、健康の向上にも繋がったと思う。

・野球大会 6/3と9/2にコミ協主催で実施。6自治会のチームとPTAチーム、女池祥ロードーズOBチームの多世代の交流となっている。

② 小学校でのふれあいスクール等の活動

女池っ子縁日 30年度は11/17に女池小学校で児童対象の縁日を実施予定である。

③ 除草活動 9/30に女池コミ協内のほとんどの自治会が参加し、一斉草取り大会を実施した。

2 女池地区の課題

(1) 少子高齢化

他地区と同様、女池地区も子供世代の転出による高齢化、新たな住民が住もうための宅地がなく住宅もないことで少子化が進んでいる。今から対策を立てないと高齢者中心の地域になってしまう。30年～40年経っても、今と同じように子どもから高齢者までが住んでいる女池地区にするためにどうしたらいいか、話し合ったり考えたりしていくことが課題。

(2) 運動習慣の欠如

ウォーキングをしている人を地域内で見かけない。地区全体で見ても、運動を習慣化している高齢者が少ない。日常に運動を取り入れられるような活動が地域の課題

(3) 塩分が多い食事をしている人が多いのではないか

女池地区に限らず、新潟市全体で塩分を取りすぎていると聞いたが、食事の面からも健康寿命の延伸に取り組むような活動が地域の課題。

3 女池地区で平成31年度～32年度で取り組みたいこと

(1) 地域包括ケアシステムを女池地区で構築するための事業

食事、運動、コミュニケーションの3点から地域で支えあいの仕組みづくりを一層推し進め、最終的には地域住民すべてがその重要性を認識し、実践できるような活動を考えていきたい。

(2) 次世代住民の地域活動への参画強化

子育て支援、30歳から50歳代のいわゆる中間層の地域活動への取り込み、買い物支援等を実践していきたい。

女池地区

地区の現状・・・・・・・・この地区はこんなまち

女池地区の今ある地域福祉の活動（平成25年度）～こんな素敵な活動があります～

- ・女池コミ協野球大会（春・秋二回）
- ・緊急医療情報キット配付事業
- ・買い物支援事業
- ・小張木お助け隊（自治会内の支え合い活動）

この地区の 良いところ

- ◆自然が豊かで恵まれている。
- ◆さまざまな施設が充実して交通アクセスも良く生活が便利。
- ◆子どもや若い世代がどんどん転入してきて活気があり、今も発展している感じがする。
- ◆高齢者への見守りや声かけが町内でみられる。
- ◆自分の家に住み続けたい！と願う高齢者が多い。
- ◆多様な世代・多様な住まい方が女池の一員として住んでいるので、いろんな力がある。
- ◆中学校と連携が進み、地域と一緒に避難訓練ができた。

この地区の 良くしたい ところ

- ◆寄合いの場、住民の活動拠点がなくて不便である。
- ◆歩いていけるとところに地域の茶の間がほしい。
- ◆除雪に困る独居高齢者や高齢者のみのお宅がある。
- ◆住民同士顔が分からないで暮らしている場合も増えた。
- ◆困っている人に気軽にお節介する人が少なくなった。
- ◆困っていることや助けてほしいことを気軽に話せる関係がある地区にしたい。
- ◆学校ボランティアに年配の方の力をもっと貸してほしい。

目標・目指す姿・・・・・・・・こんなまちにしたい

①好きです♡女池 安心・安全な
住みやすいまち

②みんなで声をかけあうまち

③三世代が地域に根ざすまち

行動と工夫・・・・・・・・こう取り組んでいこう

安心・安全
住みやすく

◆自治会の「班」でサポートし合う活動に取り組む。
・向う3軒両隣の5～6軒でグループをつくる。

◆助けてほしい人と助けたい人をつなぐ仕組み
を地域で作る。

・外出困難な高齢者を車で買物に連れて行く・訪問する。
・タクシー会社等と提携しての買物や外出の支援を検討する。

◆地域防災・防犯（見守り・情報提供）を活性化
する。

・高齢者への情報の配付、掲示板の設置を行う 等。

みんなで声を
かけあうまち

◆空家の利用などで、地域の茶の間を増やす。

◆地域の方の声をひろえるような工夫をする。

・隣近所であいさつし合う・一声運動等を行う。

三世代が
地域に根差す

◆世代間交流できる場所をつくる。

◆地域のお祭りで交流を深める。

◆地域と学校パートナーシップ事業を活用する。

・学校行事に高齢者も参加するような取組みなど